

トイレのエスノグラフィー

浦山 颯太

キーワード：トイレ、厠、トポフィリア、個人空間、場所

要旨

本稿の目的は、東京都渋谷区にある「THE TOKYO TOILET」という17カ所のトイレをフィールドとして、現代社会においてトイレがどのような場所であり、どのような役割や意義を求められているのかを明らかにすることである。

第1章では、本研究に至った背景、研究設問を述べ、なぜ東京都渋谷区にある「THE TOKYO TOILET」をフィールドとして選んだのかについて説明する。

第2章では、日本のトイレの歴史を概観し、それに伴う人々のトイレに対する距離感や考え方の変化について、現在のトイレが置かれている文脈を理解する。

第3章では、先行研究のレビューを行う。過去の日本のトイレがどのような場所でありどのような役割を持つ場所であったかについて述べる。また、トゥアンの場所理論を概観し本研究の立場を示す。

第4章では、本研究のフィールドである「THE TOKYO TOILET」についての概要を述べ、本研究を行う際の研究概要、調査方法、研究倫理などを記す。

第5章で筆者が実際に「THE TOKYO TOILET」でフィールドワーク調査を行った上での事例を記す。

第6章では、フィールドワーク調査の結果を、利用者の視点から記述する。

第7章では、結果を受けてトイレがどのような場所であり、どのような役割を持っているのか考察をする。

第8章では、上記の調査や考察を通しトイレは、周囲から隔絶されているわけではなく緩やかに外とのつながりがあること、トイレが置かれている周囲の状況や利用者に寄り添ったトイレであること、汚れや傷がつくのを前提としたトイレであることの3つが求められていると結論付けた。